

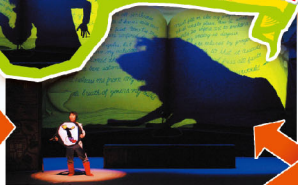
手影絵ワークショップ

数々のTV番組・教育誌でも採り上げられているかかし座の手影絵。「動物たちの大行進」は数十種類の動物が次々に登場する見ごたえたっぷりのパフォーマンスです。アッとおどろく影絵の技も、ちょっとだけ教えちゃいます。



変身!! 人喰い鬼がライオンに

実はこれも手影絵なのです



舞台裏はこんなことになってます



おはなし

むかしむかし、3人のむすこをもったお屋敷にいました。そのお屋敷に死んで、上のいさんは水車小屋で、下のいさんは口バをもらいました。いちばん下のおとうとがねこしもらえずに泣いていると、そのねこが言いました。「ご心配なく、ご主人さま。わたくしに、ふくろをひとつとながつて一足くださいな。」

ねこにはどんなぞせん。かんがえがあるのでしょうか？

きれいなおひめさま、りっぱなお城、そしてそこにすんでいる人喰いおにとねこのちえくらへ。

ながつてはいたねこの大活躍に主人もびっくり。



ね、猫がしゃべった



2人遣いの人形

場面によって何種類もの人形を使い分けています



ものしりコラム なぜねこは長靴をはいたのか？

15世紀のヨーロッパでは長靴(ブーツ)は騎士が馬に乗る時に必要な履でした。つまり長靴をはくことは騎士(ナイト)であることのしるしだったのです。

ねこのジャンは冒険で主人である少年に「長靴を下さい」と言っで自分の格好を整えます。騎士の身なりをすることは、同時に自分の仕える主が身分の高い人間であることを示します。そうすればたのしい少年とねこでも周囲の信頼を得られるだろう、というのがねこの作戦だったのです。



